



ギャラリー南に展示されている作品の中に全身ヌードを撮影した作品、また、ギャラリー北には動物の死骸を撮影した作品があります。
鑑賞される場合は、あらかじめその旨をご承知おきの上、ご入場ください。

今回の展覧会では作品リストを公開していません。
タイトルやテーマによってイメージを規定することを避け、できる限り鑑賞者の想像力を活性化したいと意図したものです。
写真は、そこに直接映し出されたもの以外にも、たくさんのイメージを内包しています。
また写真作品を構成した展示空間からは、写真そのものとは別の意図やイメージを感じることもあります。
鑑賞者は本展を通して、展示した作品1点ずつを見るだけでなく、それぞれの展示空間全体を一つとして、さらにその両方を行き交う関係性を、身体的に経験することでしょう。
またその経験によって、鑑賞するあなた自身が作品から広がる世界を重層的・多面的に立ち上げ、生み出した新しいイメージに出会うことができるのではないかと考えています。

FOCUS #5

麥生田兵吾 Mugyuda Hyogo

色堰と空割と息返かつかつか

2023年8月19日[土]-9月18日[月・祝] | 10:00-20:00 | *9月4日[月]は臨時休館のため閉廊

出展作家: 麥生田兵吾 | 企画: 安河内宏法 (京都芸術センター)

宣伝美術: 塩谷啓悟 | 設営: SOGO TECHNICAL DESIGN | 主催: 京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会) | 助成: 全国税理士共栄会文化財団 | 協力: 株式会社サンエムカラー、Gallery PARC

私は居る、まさにここに生きるのに、どうして私と現実に不一致を感じるのか。
モノが在る、見ることに照らされ出る背後の影に、どうして重さが宿るのか。

現実から浮き剥がれる私と、見るに比例して座りを確かにするモノら。

私から見るばかりでなく、モノのほうから私を見るとき、
私とモノとがイメージを移し合う関係のとき、

私(モノ) ⇔ モノ(私)
現実(影) ⇔ 影(現実)

現実ともモノとも、私と影とも切断されて、穴が現れる。
穴は現れて消える瞬間、その中心に、引き込み落として弾みあげる。
何が落ちて、何が弾みあがるのか。
それは、声。
東ねられた声とも、ひとつの声ともつかぬ、

あの声。

麥生田兵吾

京都芸術センターで主催する展覧会として、写真表現に正面から取組むのは久しぶりのことです。今回の展覧会では、単純に写真作品が展示されているということだけではなく、現代美術の文脈において写真をどう扱うのかという課題に対しても、これまでにあまり見たことのない面白い仕掛けが、麥生田さんによってほどこされています。

現代の私たちの生活の中で、写真はとても身近なものです。大量に溢れ、あっという間に過ぎ去っていくイメージに、驚いたり感動したりする暇もなく無感覚になっていることがほとんどではないでしょうか。

しかし、この展覧会から得られる写真のイメージは、普段目にする写真とは大きく異なっていると感じています。それは、2つの会場を物理的に移動しつつ身体的に体感すること、また互いの空間を行き交うことで生まれるイメージが用意されていることが、大きく起因しています。対照的な2つの空間、覗き込んだり、見上げたり、俯瞰したり、視線の導かれる先々で新しい発見があります。写真は、そこに映し出されている以上のイメージを内包し、見る人の心の中に、新しいイメージを喚起します。この展覧会は、その豊かなメディアとしての写真を体感するための絶好の機会になっています。

麥生田兵吾 | むぎゅうだひょうご

写真を中心に展開するその活動は、ふたつに大別される。ひとつは、自身が撮影した写真をWeb上に日々公開する「pile of photographys」。もうひとつは、「人工的に作られた感性」などを意味する造語「Artificial S」をテーマとする表現活動である。この「Artificial S」は、「眼の原体験」・「メタファー」・「他者あるいは超他者」・「制度化される風景」・「生／死」という5つのテーマに細分化され、麥生田はこれまで、それぞれのテーマにもとづいて個展を開催している。

また、作品からは、「人が生まれて死んでいく」という当たり前の営みを通して、社会とつながり、さまざまな経験ををするのだ、という単純な事実を強く感じました。死が「生きること」の始まりになることも、何度か、あるいは何度も繰り返し辛い思いを経験した先に、感じ取ることができるかもしれない。

あたりまえのことなのに、現実感がなく、意味もなく流れていくことが日常に多すぎる。その虚しさに気がついてはいるけれど、一方で、人と重なる重みが気持ちいいことを、なんとなく思い出したりする。そんな風に自分の世界とつながって感じることでできる麥生田さんの作品の魅力を、改めてお伝えしたいと思います。

pile of photographys URL:
<http://hyogom.com/pilephotos/>

山本麻友美(京都芸術センター副館長)